

令和元年第4回(6月)定例会

令和元年6月18日(火)午前9時から和木町役場議事堂において、
第4回和木町議会定例会を再開する。

○出席議員(10名)

1番	津島宏保	
2番	栗本詠子	
3番	嘉屋富公	
5番	上田丈二	
6番	灰岡裕美	
7番	上岡富士夫	
8番	小林秀嘉	
9番	森脇明美	
10番	中村充子	副議長
11番	兼本信昌	議長

○説明のため出席した者

町長	米本正明	
副町長	河内洋二	
企画総務課長	田中雅彦	
税務課長	吉岡司	
住民サービス課長	坂本啓三	
都市建設課長	村岡辰浩	
保健福祉課長	森本康正	
教育長	重岡良典	教育委員会
事務局長	渡邊良平	〃

○会議に従事した職員

事務局長	田中敬子
書記	松島久子

開 会 9時00分
議 長 おはようございます。
日刊いわくじから撮影の許可願いが出ておりますので、これを許可いたします。
携帯電話お持ちの方は、電源をオフにされるようお願いいたします。

議 長 これより本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配布をしてあるとおりです。

議 長 日程第1 一般質問を行います。
質問の通告が3名です、通告順に質問を許可いたします。
質問順位1番 8番議員 小林秀嘉君。

議 長 小林君。

小 林 議 員 通告に基づきまして一般質問させていただきます。
声入ってますかね、大丈夫ですか。
私たちが生まれてずうっと右肩上がり言うんですか、人口が
どんだんどんどん増える時代に育って参りました。地球が人口
で爆発するんか思うぐらいの学校でそういったことを習って
参りました。ところが昨今、逆に右肩下がりの人口に推移する
ようになりました。一番沢山いる中国ですら一人っ子政策の反省
が出て、今、急に2人にするという案が出てますけれど、なか
なか一旦一人っ子にして子どもを育てるのは1人になるとす
ごく楽であるというような感じで、そのまんま推移している
ように思われます。そこで和木町の人口の推移、それから様々
な要因があると思われませんが、その影響についてまず町長、そ
して課長の方にお話を承りたい、このように思っております。
先日岩国市の市会議員と話ししました時に、ようやく和木さ
んに追い付きましたと、で何かと思いますと、要は給食費の無
料化、それから医療費の点についてであります。そういったこ
とを踏まえて和木町の一番特徴、特色があったと思われま

で質問させていただく事になりました。まだ岩国市さんが実行されてそんなに日にちは経っておりませんが、そのことについて何か情報がお分かりなら教えていただければと思います。

それから増加要因と減少要因、人口のですね、減少要因とがありますけれど、そこへ1番、2番、3番というふうに挙げさせてもらいました。その中で和木町の大手の会社の独身寮が大竹市の多分新町だと思えますけれども、そちらの方へ移転する、何名ほど移転するのかということが一番若い人がいなくなるんですよ、これは私みたいな年寄りがいなくなるのならまだあれかもしれませんが、1番重要な人たちが移転します。それを止めることはできませんけれど、それからまた素晴らしい認定こども園ができました。これはこの辺にないという素晴らしいものであります。プラス要因だと私は思っております。ということから質問をまず伺いたいと思います。

1番目に入りますけれど、岩国市が先程申しましたけれど給食費の無料化、それから医療費の無償化を決めました。先程申しましたが日数はまだ経過しておりませんがどのような情報が入っているか、あるいは影響が出てくるかについてお尋ねしたいと思います。よろしくお願いします

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 給食費の無料化そして医療費の無償化についてご質問いただきました。

まず、医療費の無償化、これは県の補助制度であります福祉医療制度に米軍再編交付金の基金事業を上乗せする形で医療費の無償化を図っているものです。岩国市、和木町とも、ほぼ同時期の平成20年頃から実施し、中学生までに拡大したのは和木町の方が早かったと記憶していますが、現在では岩国市、和木町とも同様に中学校3年生まで医療費自己負担を補助しております。

給食費の無料化については、和木町では60年以上の歴史が

経っております。60年以上歴史を経ています。岩国市では、岩国飛行場関連特定事業として、平成29年10月から市立小中学校の学校給食の無料化を、無償化を実施するための基金造成を行っておられます。

議員のおっしゃられますとおり、岩国市で給食費無償化を始めて長くありません。岩国市と和木町の最近の人口動態を見ますと、岩国市では給食費無償化事業開始前と大きな変化はなく人口は若干の減少傾向、和木町は増減があるものの現状維持に近い数値となっております。現時点では人口の推移について特段の影響は認められず、他の分野についても特に大きな影響はないものというふうに思っております。

議長 はい、小林君。

小林議員 今、岩国市も少しだけの減少、和木町は変わらないということではありますが、その中に実際には自然減少、人口の自然減少いうのも発生しますね、今、給食費とは関係ありませんけれどそういった事も含めて、どのようにその自然減少起きてるかお尋ねいたします。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 人口の増減につきましては自然増減と社会増減があると思っております。大雑把な話させてもらって申し訳ないんですけど、岩国市さんにおかれては社会減それから自然減、生まれるお子さんに比べて亡くなられる方のほうが多くなっておられますし、転入に比べて転出が多くなっているというふうにお聞きしております。和木町におきましては、自然増減、それから社会増減、これが年度によって変わっておりますので大体现状維持を続けている、それから年度によって社会増になることもありますし自然増になることもある、逆に自然減になることもあるし社会減になることもあるということになっていると思います。

議長 はい、小林君。

小林議員 よその都市を見ますと人口が増えているのはやっぱベットタウンになってる、働くところがあるからその町のベットタウンというのがどうも要因で人口が悪化になる、増えてってるということはよくわかりますが、まあ和木町においては大きな会社もう少し他の会社もある訳ですが、それによってすごく増になるということは今のところないかと断言する訳ではありませんが、そういうことが起きているのではないかと思います。大体の人口の増減がわかりました。

続いて、三井化学株式会社と書きましたが、独身寮が和木町から大竹市へ移転するというのが発表されました。まだ発表されて間がありませんからそういったことは影響ないかどうかわからないかもしれませんが、三十数名かもしれませんが、何人がどうなるかというのを教えていただきたいと思えます。

議長 はい、田中企画総務課長。

田中企画総務課長 和木2丁目の三井化学和木社宅には、居住用の8つの棟が建っております、このうち県道側の3棟が家族向けの住宅、残りの5棟が独身寮と聞いております。

議員がおっしゃいますとおり、現在、大竹市新町において新たな独身寮が建設中であり、本年12月末に完成予定で、年明けの1月から3月にかけて約150名の方が転居される見込みであるというふうにお聞きしております。

三井化学さんによりますと、転居後の和木町の独身寮の活用方法について決定していないものの有効活用を図っていく意向であると聞いております。町としても、人口減少を食い止め町政の活性化を図っていくこととしており、引き続き、その活用について、三井化学さんとも協議を進めて参りたいと考えております。

議長 はい、小林君。

小林議員 すごい人数なんですね、行くのは。ちょうど私の家の前に建物がある訳ですよ、こども園ができる前は2つ、2箇所に分かれてましたね。今度1箇所になって、1箇所になった後また更にかかりの人数がいなくなる、この後今おっしゃいましたけど、建物をどうかするかとか、あるいはお風呂が付いてますよね、和木町の場合、朝から銭湯入ったりいろいろしておられますが、まあ聞いておられるかどうかわかりませんが、今、またこう通告しておりませんかからわからん言われたらそれまでなんですけれど、ぜひもう少し活性化を図る意味で、こう増やすようにご尽力していただければと思います。

3番目に移りますが、認定こども園素晴らしいのできました。以前は他所の町で働いているから他所に預けるということがありましたね、これができるということはどうなるんでしょうか。やはり働いているところに預け、和木町からお金を持ち出し、あるいは他所からこちら入って来るゆうことは在り得るんでしょうか。お願いします。

議長 はい、渡邊教育委員会事務局長。

渡邊教育委員会事務局長 認定こども園で和木町以外の所で働いておられる方が和木町の認定こども園に入れるか、また市外の方、町外の保育所、こども園に行くかというのはですね、まず空きがあるかないか、それからその保護者の意向もあります。例えば和木に住んでいるけど職場に近い方がいいとか、こういう場合であれば、そのまま町外の認定こども園、保育所に預ける方もいますし、逆に町外の方で仕事場が和木町に近いから和木のこども園に入れたい、ただここは定数、保育所の数なんかもありますので全てが受け入れられるということではございません。

議長 はい、小林君。

小林議員　こども園が外観から見たらすごく素晴らしいんですが、何か情報お聞きですか、あっこやったら入れてみようとかいう感じのものをお聞かせ願いたいと思います。

議長　はい、渡邊局長。

渡邊教育委員会事務局長　4月1日のこども園開園以降、町外から通園していたこどもが7人おりました。このうち後に和木町に転入してきてそのまま和木のこども園に入ったこどもが3人おります。それからこの他に3月下旬から現在までに他の市町から和木町に転入してきて、こども園に入園したお子さんが7人います。

それと昨年度末、2月、3月頃から現在までに、他の市町から和木のこども園に入園できますかという問い合わせ、これは19件ございました。内訳は、広島市在住の方から1件、広島市の区役所を通して1件、廿日市市役所から1件、広島市・大竹市・岩国市から広域圏内での利用調整（当該市内の保育施設が定員いっぱいなどの理由で和木のこども園に入園できるかどうか確認したいという）こういうのが、問合せが14件、それから転入予定者から2件、以上で19件の問い合わせがございました。

議長　はい、小林君。

小林議員　岩国市の場合は隣、和木町の隣に小瀬がありますね、私もいろいろ他の人から伺ったんですけど、合併しときゃあよかったのいう話ですね。私に言われても合併しなかった訳ですから、この和木を通過して人絹町へ中学校の生徒は通っていますよね、朝7時に起きて、行って、気の毒だなと私は思っています。それから小学生も関関バイパスが出来たせいかバスで今度は関戸の方のある藤河小学校ですか、あちらの方へ行く話を聞いてまいりました。何か隣同士におってね、何かできんのかと私は思いました。ところが岩国市がちょうど給食費の無料化になりましたから大きな壁が取り払われたような私は感じまし

た。お聞きしましたら結局法的なものでそれは出来ないという事を私はお聞きしまして、残念だないうことであります。

私が間違ってたのは、今全く話は違いますが、水道なんかはですね、私が最初に議員になった時は、全く水道ですから1本に繋がっているところと思ってました。そして議員になって初めて後でわかるんですけど、瀬田・関ヶ浜は別の水道、私ら和木町内、和木町内は和木町なんですけど、和木地区におられる人は錦川からの水系から水道を買っているということを改めて知りました。水は一本じゃあないかと最初は思っていました。で小瀬はどうなんか、何か私はね、和木町からずっと水道は行ってるもんだと、そしたら小瀬は小瀬で井戸水を掘って、大谷地区とよく似てるんですね、そういった同じ広域のところでもいろいろな事をやっていかなければいけないんですけど、まず合併をしなかったということで私は大変、現町長も議員の時に合併の反対なされたお一人なんですけど、今、岩国市の町を見てたら、玖珂郡って背負ってるのは和木町だけで、すごく誇らしいゆうふうに思います。当時はびびってですね、これ合併せんと町がだめなんじゃないかという思ったものであります。余分な話してすみません。

ほんじゃあ次の問題の方に移りたいと思います。

2番目に入ります。限界集落と準限界集落についてお考え聞きたいと思います。

今回選挙でいろいろ町内を回りました。随分、私は4年間議員でありませんでしたので、そうでなくても4年に1回回る訳ですから、随分高齢化が進んで、自分の歳を忘れてお話ししてるところもありますが、殆ど通院なさってるとかいろいろな状態が、あるいはお亡くなりになったとかいうことで、しかもその間に高齢化がどんどんどんどん進んでいます。多分右肩上がりの高齢者がこれからどんどん増えると思われれます。

他の市町村と比べて、和木町のまずお聞きしますけれど、どういうふうな具合いうんですか、和木町の限界集落65歳以上、準限界集落言いますと55歳以上になる訳ですが、比べてどのような状態であるか。そしてあとからまたバスについてお

伺いたしますが、先にその件について教えていただければ幸いです。

議長 はい、森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長 本町の高齢化率でございますが、平成31年4月1日現在で、高齢化率は、26.35%で、平成27年、5年前と比較して1.04%増加しております。

山口県平均は、平成30年山口県人口移動統計調査では、平成30年10月1日現在で、33.96%、岩国市は、ちなみに35.46%です。

全国平均は、平成30年度版高齢社会白書によりますと27.7%で本町は、全国平均より下回っております。

議長 はい、小林君。

小林議員 安心したところですが、これからどンドンどンドン高齢化になってくと思われま。今のところ一安心として私は捉えておきたいと思いま。

それで今度バスなんですけれど、私が岩国市に度々出かけますけど、岩国市は合併したせいか、バスが由宇からずうっと降りなかったら駅前まで100円で来るんですね、70歳超えますと。由宇いいますと教育長さんも他に課長さんもおられる訳なんですけれど、あそこから100円で来るというのがすごいなと思いま。そのバスの利点ですね、だけど沢山の人が乗ってるようにも思いません。もう1ついけないところは、あまり乗らないと配車しないゆうんですか、そこへ回らない、切り捨てるそういったところが度々あるように思いま。もう1点はバスをそこへはもう回さない、他のところへ回す、いう話も聞いておりますけれど、私が、和木町の場合は地域が狭いですよね、蜂ヶ峯行ったり、あるいは大谷まで行ったり、関ヶ浜の奥まで言ったり、それがまあ和木町内、和木駅を中心にぐるぐる回っておりますけれど。それでどういふふう、私なんか高齢者に

なったら、まあバスに乗るのはもう近いんですけど、この免許証をね返上していくよう、2番目の方にもう入りますが、免許証を返上する時期がもう近づいて参りました。和木町としてね、今盛んに、今朝も名指しで誰々を殺したとかいう毎日のように出て参ります。今朝は60歳で女性の方が槍玉に上がっておりますが、言葉は悪いですけど事故を起こして、それから通学路の確保も大切なんでしょうが、そうしててもそういった事故が起きております。和木町においてはどういう証明、ある程度わかりますけれど、何か利点があるようになさっておられると思いますけれど、質問させていただきます。

議長 はい、田中企画総務課長。

田中企画総務課長 今のご質問、まず運転免許証返上についてその利点ということによろしいのでしょうか。

ではまず運転免許証の自主返納について、その概要等々説明させていただきます。

まず議員もおっしゃいましたとおり最近交通事故が大変増えております。ただ発生の件数、それから死亡者、これは減少傾向でございます。その一方で65歳以上の高齢者が関わる割合は高くなってきており、これは山口県でも同様の状況であると聞いております。

さらに近年では、被害者だけでなく高齢者が加害者になるケースも増えてきており、これは身体能力の低下によるハンドル、ブレーキ操作の遅れ、それと最近よく耳にしますけどブレーキとアクセルの踏み間違い、あるいは判断能力の、判断力の低下が原因になっているというふうに聞いております。

山口県警察、山口県警では、運転卒業証制度というものが設けられており、自主返納された65歳以上の高齢者には運転卒業証と運転卒業サポート手帳、これの交付を受けることができます。また、発行手数料がかかりますけど運転経歴証明書の交付を受けることもできます。

先ほど申し上げた運転サポート手帳を提示することで和木

町コミュニティバス料金の減免を受けることもできますし、民間タクシー会社の料金の割引、あるいは各種支援企業や団体からの様々なサービスを受けることもできるというような状況になっております。

議長 はい、小林君。

小林議員 あとバスですがね、出来た当時から比べると本数はどのようになっているかわかりますか。質問の中に入れておりませんが、もしわかったら答えて、わからなかったらよろしいんですけど。

議長 はい、田中課長。

田中企画総務課長 和木町コミュニティバス、運行を開始しまして一部見直しを行っておりますけど、この数年間は見直しを行ってませんので本数の増減はあまりありません。

議長 はい、小林君。

小林議員 大体お聞きする事ができました。和木町が益々こう反映していくことを期待しまして一般質問終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長 再質問がないようですので、小林秀嘉君の一般質問を終わります。